

平成23年度 事務事業評価表(平成22年度分に係る報告)

評価対象事務事業名	北上川流域市町村連携事業				事業コード	0053
担当課等	所属名	市長公室 企画調整課		担当係名		
	課長名	市長公室 企画調整課	担当者名	千代谷 晶子	電話番号	3814

1. 事務事業の基本情報

総合計画体系	施策の柱	心がつながる相互理解	コード 3	施策	多様な国際交流・地域間交流の推進	コード 3
	基本事業	地域間連携の推進	コード 2			関連予算 費目名
	特記事項	総合計画主要事業				
	事業期間	○ 単年度 ● 単年度繰返 ○ 期間限定複数年度 ⇒ (開始年度 9年度～)				
事務事業の概要	北上川の流域市町村で構成される「北上川流域市町村連携協議会」の活動に参加し、共有の資源である”北上川”の自然環境について学ぶこと等を通じ、清流の維持と連携した地域づくりを行う。					
根拠法令等	北上川州域市町村連携協議会会則					
この事務事業を開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか)						
北上川流域は、人的・物的流通の根幹であり、歴史的な結びつきが強く、また、交流連携意識が高い地域であるが、国・県とも協力しながら市町村間の連携をより一層深めていく必要があるとの認識から、平成9年4月に「北上川流域市町村懇談会」を設立した。その後、より主体的な事業を行うこととし、名称も「北上川流域市町村連携協議会」(平成11年1月)に変更した。						
この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係等)からどのような意見・要望が寄せられているか						
・平成12年9月議会において、「(横軸連携のような)地域連携事業については、全庁的な意識を持って取り組むべき。」との意見が出された。 ・平成17年3月議会において、「考え方やアビールの仕方、政策的なものを県又は国とも協議しながら実施するべき。」との意見が出された。						
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令)はどうか。今後の見通しはどうか						
平成9年4月に「北上川流域市町村懇談会」が発足した当時は、「環境問題」に関する取組は、多様な事業の中の一つでしかなかったが、地域住民の環境に対する意識の高まりとともに、「環境問題」に関する取組がメインとなってきており、環境以外の分野でも地域連携を図るため、事業内容の再検討が必要になってきている。						

2. 事務事業の実施状況(Do)

①対象 (誰を、何を対象としているのか)	北上川流域市町村	⇒	②対象指標 (対象の大きさを示す指標)	A. 北上川流域市町村連携協議会構成市町村数	単位	市町村
				B.	単位	
				C.	単位	
③手段 (事務事業の内容、やり方、手順)	22年度実績(22年度に行った主な活動) ・北上川流域市町村の意見交換 ・北上川の健康診断(環境調査) ・地域づくり活動に対する支援 ・北上川河口域ゴミ清掃活動 23年度計画(23年度に計画している主な活動) ・北上川流域市町村の意見交換 ・北上川の健康診断(環境調査) ・地域づくり活動に対する支援 ・北上川河口域ゴミ清掃活動 ・水源地保全活動	⇒	④活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)	A. 会議開催回数	単位	回
				B. 健康診断(環境調査)実施回数	単位	回
				C. 河口域ゴミ清掃活動実施回数	単位	回
⑤意図 (この事業により対象をどのように変えるのか)	北上川流域市町村の交流を強化し、連携した地域づくりを行う。	⇒	⑥成果指標 (意図の達成度を示す指標)	A. 健康診断(環境調査)への参加児童数 【指標の性格:○ 上げる ○ 下げる ● 維持する】	単位	人
				B. 河口域ゴミ清掃活動への参加者数 【指標の性格:● 上げる ○ 下げる ○ 維持する】	単位	人
				C. 【指標の性格:○ 上げる ○ 下げる ○ 維持する】	単位	
⑦結果 (上位基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するか)	地域間の民間交流が活発に行われる	⇒	⑧上位成果指標 (上位基本事業の成果指標)	地域間連携・交流事業の数(単位:件)		

2. 事務事業の実施状況(続き)

⑨事務事業の各種指標の実績及び目標値

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	目標年度 目標値
対象 指標A	北上川流域市町村連携協議会構成市町村数	市町村	15	14	14	14	14	14	年度
対象 指標B									年度
対象 指標C									年度
活動 指標A	会議開催回数	回	3	2	2	2	2	2	年度
活動 指標B	健康診断(環境調査)実施回数	回	2	2	2	2	2	2	年度
活動 指標C	河口域ゴミ清掃活動実施回数	回	1	1	1	1	1	1	年度
成果 指標A	健康診断(環境調査)への参加児童数	人	361	338	350	382	350	350	年度
成果 指標B	河口域ゴミ清掃活動への参加者数	人	724	653	700	645	700	700	年度
成果 指標C									年度

⑩事務事業に係る事業費

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	*****
事業費	A	千円	85	90	94	86	94	94	*****
財源 内訳	④国	千円							*****
	⑤県	千円							*****
	⑥地方債	千円							*****
	⑦一般財源	千円	85	90	94	86	94	94	*****
	⑧その他	千円							*****
	合 計 (④~⑧) (=A)	千円	85	90	94	86	94	94	*****
	延べ業務時間数	時間	80	80	80	80	80	80	*****
	職員人件費 (B)(臨時職員賃金は、事務費に含む)	千円	320	320	320	320	320	320	*****
	トータルコスト (A) + (B)	千円	405	410	414	406	414	414	*****



3. 事務事業の評価(See)

必要性評価	①施策体系との整合性 この事務事業の意図は、結果(政策体系)に結びついていますか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある <input checked="" type="radio"/> 結びついている	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	②公共関与の妥当性 市がやるべき事業ですか？ 税金を使って達成する目的ですか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある <input checked="" type="radio"/> 妥当である	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	③対象の妥当性 対象の設定は現状のままでいいですか？ 広げられませんか？ また絞らなくてよいですか？	<input checked="" type="radio"/> 拡大または絞る余地がある <input type="radio"/> 現状で妥当である	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	④意図の妥当性 意図(何を狙っているのか)を絞ったり拡大したりして、成果向上できませんか？	<input type="radio"/> 拡大または絞ることができる <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
有効性評価	⑤成果の向上余地 成果がもっと向上する余地はありますか？	<input checked="" type="radio"/> 向上余地がある <input type="radio"/> 向上余地がない	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	⑥廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合、施策の成果に及ぼす影響はありますか？	<input type="radio"/> 影響がない <input checked="" type="radio"/> 影響がある	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	⑦類似事務事業との関係 類似の事務事業(国、県、市の内部、民間)はありますか？	<input checked="" type="radio"/> 類似事業がある <input type="radio"/> 類似事業がない	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
効率性評価	⑧事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できる余地はありますか？	<input type="radio"/> 削減余地がある <input checked="" type="radio"/> 削減できない	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	⑨人件費の削減余地 成果を下げずに人件費(延べ業務時間数)を削減する余地はありますか？	<input type="radio"/> 削減余地がある <input checked="" type="radio"/> 削減できない	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	⑩受益機会の適正化余地 受益機会の適正化余地はありますか？	<input type="radio"/> 適正化余地がある <input type="radio"/> 公平・公正である <input checked="" type="radio"/> 特定の受益者はいない	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
公平性評価	⑪費用負担の適正化余地 受益者の費用負担の適正化余地はありますか？	<input type="radio"/> 適正化余地がある <input type="radio"/> 公平・公正である <input checked="" type="radio"/> 特定の受益者はいない	⇒ 4. 事務事業の改革案へ

4. 事務事業の改革案(Plan)

改革／改善方向	①改善の方向性(この事務事業をどう変えていくか、廃止や拡充、事業方式改善など) ※複数ある場合は、代替案その1、代替案その2とすること 協議会事業の実施に際し、市内民間団体等との連携及び事業参加の周知に努める。
	②改革、改善を実現していく際に想定される問題点は何ですか？ それをどう克服していきますか？ (関連部門や全庁的な調整の必要性、トップへの要望も含む) 民間団体等の把握に努めるとともに、どの事業でどのような連携を図れるか検討する。

5. 課長意見

一次評価	(1)一次評価者としての評価結果		(2)全体総括(振り返り、反省点)
	① 必要性 ○ 妥当 ● 見直し余地あり ② 有効性 ○ 妥当 ● 見直し余地あり ③ 効率性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり ④ 公平性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり		構成市町である北上川流域の自治体が連携を図りながら、環境を切り口とした活動を行っており、北上川の水質調査や北上川河口地域の清掃活動などに参加している。平成20年度から新規事業として「北上川流域圏地域づくり活動等助成事業」を開始しており、22年度は、本市では盛岡・北上川ゴムボート川下り大会実行委員会に助成を行った。
今後の方向性と改革改善案	(3)今後の事務の方向性(改革改善案)		
	<div><div><input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止</div><div><input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携</div></div> <div></div> <div>方向付けの理由と改革改善の内容 地域間交流は行政よりは民間セクターが主導的役割を發揮することが、より効果的であることから、多様な民間が参入可能な環境づくりに努める。</div>		